

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0572308690 | | |
| 法人名 | 湯の越の里株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム湯の越の家 | | |
| 所在地 | 秋田県南秋田郡五城目町内川浅見内字後田125番地5 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年1月16日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.akita-longlife.net/evaluation/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会 | | |
| 所在地 | 秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年2月2日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホーム湯の越の家では山々に囲まれた周囲の四季折々の景色を楽しみながらゆっくりのんびり生活が出来ます。広い庭で散歩をしたり木々を眺めたりゴールデンレトリバーの動きや姿をみて癒されたりとセラピーを感じる事が出来ます。
 ・五城目町の地域郷土料理のたまご鍋と一緒に作る事により手作りの楽しさ・昔の生活を思い出したり個々の生活歴や趣味に合わせた行事の実施の支援を行っています。
 ・桜や梅・つつじがある庭で春を感じられる・山に囲まれ涼しい夏・紅葉の色づきが毎日見られる秋・黒土のイルミネーション飾りを毎年見学し心ときめく冬春夏秋冬を楽しめる環境にあるグループホームです。職場環境においても研修の充実等働きがいのある職場作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を見直して利用者、家族への支援の柱となるものとし、職員が積極的に発言できる環境をつくってサービスの質の向上に繋げていけるよう取り組んでいます。地域住民が気軽に訪れることができない立地環境であるが故に地域交流の難しさがうかがえますが、運営推進会議を活用し、ホームとしてできることも提案しながら地域交流の推進に取り組んでいこうとしています。過去に看取りの実績があり、要望があればホームで最期を迎えることができる環境も整えています。

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|---|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 47 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 54 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と o-rudenn 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 48 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 55 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 49 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 56 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 50 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 57 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 51 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 58 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 52 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 59 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 53 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念にもとづき快適な環境で利用者様の生活・職員の職務が出来る様に朝の申し送りで全職員にて確認をしている。利用者様・ご家族・全職員の幸せの為の実践をしている。 | 理念の見直しが行われ、申し送り等を通じて情報の共有を図り、日頃の業務において理念が実践できるよう取り組んでいます。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍の為職員・利用者様も密となる外出等に制限があり地域の関わり等日常的な交流は現在出来ていない。 | 産業祭に出品したり、保育園児との交流が行われていましたが、コロナ禍でもあり、地域交流は途絶えています。これまでの交流事業を振り返り、今後は運営推進会議等を通じて交流を図ることを検討しています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している | コロナ禍の為、地域行事への参加は出来ていないが施設便りにて職員研修・活動状況のお知らせをしている。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 12月に対面会議の開催を行った。行事や研修の報告・新型コロナ感染対策・ヒヤリハット報告に対する助言等をもとに議事録を全職員で確認し意見を反映させサービス向上につなげている。 | 書面会議が続いていましたが、対面での会議を再開しています。質疑応答の様子を詳細に記録し、出された意見が運営に反映できるよう努めています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 管理者が主となり利用者様の受け入れや事故報告・事業所の様子を随時役場へ報告している。他市町村関係機関への連携にも努めている。 | 行政とは連絡を密にしながら円滑な協力関係を築いています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 現在、利用者様の身体拘束は行っていない。身体拘束や虐待等職場内研修や外部研修を行い日頃から種類やどのような事柄が拘束や虐待と結びつくのかを資料を見ながら学び確認している。言葉や態度での心理的虐待が一番多く施設内でも互いに注意できる関係性を築き常に防止に努めている。 | 職員は拘束の内容を理解しているものの、咄嗟に発してしまう言葉かけには都度注意しており、職員同士でも注意し合える環境がつけられています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 資料を配布し職場内で読み合わせ等をしている。実際、成年後見人制度を利用している方もいる為定期的に学びとして知識を持って支援していきたい。 | | |
| 8 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者様の契約手続き時は丁寧にゆっくりと説明が出来る。疑問や不安な点は後に説明する事も出来るとお伝えし不安を解消した承をいただいている。又その場で納得・理解もいただいている。 | | |
| 9 | (6) | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている | ご家族の要望や意見は都度電話や来所時にうかがい対応している。ケア記録・申し送り・口頭にて各ユニット職員が把握出来る体制作りを行い運営を円滑なものとしている。 | 家族の意見には状況を確認して都度対応し、信頼関係を築くことができるよう取り組んでいます。出された意見、要望は記録に残して共有し、運営に反映させています。 | |
| 10 | (7) | ○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている | 月1回の会議は参加職員の意見の聞き取りを行っている。議事録に記し職場の人員配置転換や環境整備の改善・利用者様のユニットの移動等を検討した。理念の幸せな生活に結びつく実践に反映させている。 | 管理者は職員の意見が引き出せるよう努め、会議で職員は活発に発言しています。会議録を通じて代表に伝わり、建物環境の整備等に繋がっています。 | |
| 11 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者との交流はあまりない。研修で一緒となった方には挨拶はするものそれ以降の交流の機会はない。同業者との関わりを持ち課題や取り組みの活動や情報を通してサービス提供の向上につなげていきたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人は生活環境が変わる為不安に思っている状況の中にある。入所後は交流の時間を多く持ち不安や分からない事のサポートを行い支援の形をお伝えし信頼に変わる様な関係性を気づいている。 | | |
| 13 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族にも不安がない様に要望等入所時にうかがっている。話を聞き出来ない事と可能な事をお伝える。可能な事は施設サービスとして行い情報共有しご家族からの信頼を得ている。 | | |
| 14 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 生活している家族の様な関係作りを行っている。出来ない事の支援の継続を行い個人が尊重されるケアを行っている。 | | |
| 15 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者様とご家族の関係を理解し家族の気持ちも理解した上で利用者様の個人のサポートや支援が出来ている。家族の意向を大事にしてそれに近い生活ができる様に支援の継続が出来ている。 | | |
| 16 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている | コロナ禍で面会も窓越しとなり制限がある。以前と同様に地域に出向いたり知人や家族に会う事も出来ない状態の為電話のやりとりや毎月手紙で状態を伝える・お便りに写真を掲載する等支援をしている | コロナ禍で制限は多いものの、家族とは可能な限り関わり合うことができる機会をつくっています。また、朝市にお店を出していた利用者にとってはそこが馴染みの場所になっており、朝市に行くことを楽しみにしています。 | |
| 17 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 認知症により言行動が気になり他の利用者から口撃をうけトラブルとなる事がある。会話や交流の中で他の利用者様が手伝ったりやさしい言葉掛けをしたり場の雰囲気を変えたりしている。職員も必ず中に入り都度理解していただける様支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 | | サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後も状態にあった施設や病院等にスムーズに入所出来る様に生活歴やアセスメントシート等情報提供と連携に努める事が出来ている。相談や今後の不安等に対する支援の継続もきちんと出来ており安心や信頼に結びついている。 | | |
| 19 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努、これが困難な場合は、本人本位に検討している | 思いや意向は毎日毎日日々変わってくる。体調の変化や気持ちの面からも関わる事で見えて来たり心情の変化を捉え把握出来る。毎日の声掛け・交流を密にし現在の状態や状況を見て随時意向をくみとる様になっている。 | 利用者の言葉、行動等、状況を日頃からよく観察しており、職員の気づきを申し送りで伝えて情報を共有し、対応を検討しながら日々の支援に繋げています。 | |
| 20 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時にアセスメント情報を全職員にて確認を行い以前の生活歴・環境・家族構成・サービス利用の状況等を把握している。 | | |
| 21 | (10) | ○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している | ケアでの困難な点・課題をあげサービス内容にて支援している。ご家族・ご本人の意向を聞き取り反映させた個々に沿った介護計画を作成している。 | 担当職員が他の職員の意見も確認し、全職員が関わって介護計画を作成しています。支援経過を記録していますが、介護計画の実施状況が不明瞭で変化が見えにくいものとなっています。 | 介護計画に沿った記録をすることでモニタリングに活かし、状態の変化がわかりやすい簡潔な記録の仕方に工夫されることを期待します。 |
| 22 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている | 毎日のケアの記録を記し申し送り・職員間で情報の共有を図る。現状の様子・支援方法の変更・日々の気づき等小さい事でも個々にあった援助の実践をする事で介護計画の見直しの基となっている。 | | |
| 23 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の催しの作業の手伝いや地域貢献が出来る取り組みに参加していただきたいのだがコロナ渦にて交流は出来ていない | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| | (11) | 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医へ継続し受診付き添いを行っている。検査や結果等をご家族へ随時報告している。職員とご家族が付き添いする場合もあり意向にあった医療を提供出来ている。ご本人との面会の機会ともなっている。内服薬の注意点やアドバイスにて状態観察等行い副作用がないかどうかお伝えし問題点が出てきた時も問い合わせし適切な対応と良好な関係を築く事が出来ている。 | 入居時に家族の了承を得て協力医に変更しており、連携が図られています。歯科については協力医による訪問診療が可能であり、薬局とは随時相談できる関係ができており、処方薬の配達もしていただいています。 | |
| 25 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 2週間に1度訪問看護師へ日々の健康状態や気づき等を報告している。受診の指示をいただいた場合もスムーズに診察を受けられる様に連携し適切な支援が出来ている。 | | |
| | | 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時には施設での情報提供書をお渡しし状態・生活歴・経緯を把握できるように支援している。また退院時のスムーズな個々にあった状態の生活を継続する為の相談等病院側と情報共有し連携に努めている。 | | |
| 27 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 生活していると身体状態も変化し出来なくなってくる事も多い。入院や重度化でご家族へ受診内容の報告・相談を随時行い状態にあったケアがどこまで出来るのかをきちんとお伝えし説明している。ご家族・病院施設にて連携し支援が出来ている。 | 利用者の状態の変化に伴い、家族の意向を確認しています。今現在は終末期のケアを希望する家族はおりませんが、看取りの経験もあり、希望があればホームでの支援に対応できる体制は整っています。 | |
| 28 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身につけている | 状態に急変が見られた場合や事故が起きた時の初期対応としてマニュアル化したものをユニットの確認出来るところに置いて対応しているが実践訓練は行っていない。色々な事故場面や急変時の対応・心肺蘇生等今後実践を交え学ぶ機会をもちたいと考えている。 | | |
| 29 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 自然災害時には地域の消防団の見回りや市町村の巡回等連絡や密な報告を行い協力体制を築いている。日中・夜間想定避難訓練を年に2回行い避難誘導等迅速に対応出来る方法を身につけている。 | 災害の危険区域でもあり、行政と話し合うこともありますが、具体的な対策には至っておらず、非常口の段差等、課題は山積していると認識しています。 | 地域の問題として運営推進会議等で行政、地域と話し合いを重ねると共に、どの災害においても立地環境による不安を解消できるよう全職員が意見を出し合い、利用者、職員が安全に避難できる体制の構築を期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個々の知能・意志・感情等を大事に思い個人の秘密が守られ否定しない対応方法や共感出来る声かけや対応が出来ている。 | 利用者が納得できる言葉かけができるよう心がけています。トイレのドアが壊れており、利用者が使用しているのが見える状況でした。 | 建具の不具合を解消し、スムーズに開閉できることで転倒を回避することに繋げると共に、プライバシーを確保して使用できる対策を期待します。 |
| 31 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎朝整容を整えたり訪問や窓越し面会時は化粧する方もいて声をかけ支援している。衣類についても好みの物を身に着ける事が出来る様声掛けを行っている。 | | |
| 32 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の時間は皆さま一番の楽しみとなっております。メニューや献立を考えたり下膳して下さったり食後の皿洗いや皿拭きも一緒に行う事で役割割りを持ち生活が出来ている。 | 日頃の会話で食べたいものを聞き、メニューに取り入れるようにしています。誕生会や敬老会、季節の献立等で楽しく食事ができるよう支援しています。 | |
| 33 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 日々の摂取量・水分摂取量については個々に記録している。全量を摂取出来る様にまたバランスよく栄養の確保が出来好きな物も取り入れながら楽しい食が摂れる支援を行っている。 | | |
| 34 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎日の日課として個々にあった口腔ケアの実践を行っている。自立支援を促し洗浄後の確認を職員が行う。口腔シートの活用も行き常時口腔内清潔保持に努める事が出来ている。 | | |
| 35 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄誘導にて立位保持がどこまで出来るのか安定しているか排泄パターンやADL等を考慮しながら随時状態把握し職員にて情報共有しその方にあった誘導の仕方・排泄チェックを行い自立支援にむけ頑張っている。 | 利用者の排泄状況についてはノート等に記録して申し送り、定時誘導する等、個々の身体機能に合った支援が行われています。 | 個々の状態を把握していますが、更にその人のパターンを支援に活かすことができる記録の活用を期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 献立に便秘予防として果物を多く取り入れている。毎朝ヨーグルトも摂取しており腸の動きもよくなる様にマッサージを行ったり体操や歩行運動をして解消に努めている。 | | |
| 37 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 個々に合わせ入浴をしていただきたいのだが職員数や業務時間の割りふりによりなかなか希望が叶わない。本人へ体調確認をしながらすすめている。入浴してからは長めに入りたい等要望があった場合は本人の意に応じた支援している。 | 強い拒否はなく、声かけに工夫して入浴を促し、週2回の支援が行われています。浴槽に入りたがらない方には浴槽にためたお湯で足を温めながらシャワーを使用し、清潔が保てるよう支援しています。 | |
| 38 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 1人1人の生活に合わせて自分らしく過ごす事が出来ている。自分のペースで気持ちよくソファで休まれたりゆっくり安眠出来る様に支援出来ている | | |
| 39 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤情報提供書を確認し副作用等に注意している。飲みにくさ等感じていないかを観察し医療機関・薬剤師と相談・報告しながら支援している。 | | |
| 40 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々にあった役割りを持つことで生活に張りを感じたり生活リズムが整い生きがいを感じる事が出来る様外出や好きな事をしながら毎日を過ごせる様に援助している。 | | |
| 41 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日頃のコミュニケーションや会話の中で以前よく出かけていた場所の話や自宅での生活の話や聞く機会があるので希望の把握は出来ている。記録へ記載・職員で情報として残し外出の支援を行っている。その日の天気を見て施設周囲を眺めたり散歩したり気分転換を図っている。 | 希望に沿えないこともありますが、できる限り利用者の要望に沿って支援できるように取り組んでいます。密にならないよう場所や時間を考慮して道の駅や紅葉ドライブに出かけています。 | |
| 42 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 財布を持ち自分でほしい物を購入し本人の満足感や気持ちの在り方を大事に思っている。自分で管理されている方には常に紛失等していないか声を掛けたり確認をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用スペースの空調は利用者様が心地良く過ごせる様な温度・明るさ・広さとなっている。季節を感じられる様な飾りつけを行ったり夜間もケガのない様に廊下やトイレ等の照明をつけ安全に生活出来る工夫をしている。 | 利用者はホームに居ながら自然を満喫できる環境を体感しています。皆で過ごすホールは季節がわかる飾りつけをし、利用者が職員と一緒に掃除をして居心地良く過ごせる空間をつくっています。 | |
| 44 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホール等で自分の好きな事(本を見たり新聞を読んだりテレビを見たり隣同士に座り談笑したり)思い思いに過ごされている。広く大きなソファが交流の場となっている。 | | |
| 45 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は馴染みの物や以前から大事にしていた物等を置き自宅で過ごしていた雰囲気に近い状態でカレンダー・(時計)も置き日付けや時間がわかる様に工夫している。居室でテレビを見たり快適に自分らしく生活出来る工夫をしている。 | 家族の写真や手紙を壁に飾り、一人ひとりに合った環境がつけられています。 | |
| 46 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホール・共有スペース・居室内ぶつかり転倒のない様に整理整頓し安全に歩行が出来る様に常に努めている。自分の居室や各場所が理解しやすい様に絵や写真を貼ったりホルダーをつるし考え理解し自分で行う事が出来る様な支援が出来ている。 | | |